

ゼミナール

再生可能エネルギー

研究すべき対象を拡大

電気自動車が充電器に接続される「前」からも対象

これまでの研究の主体

電気自動車が充電器に接続された「後」のみを対象

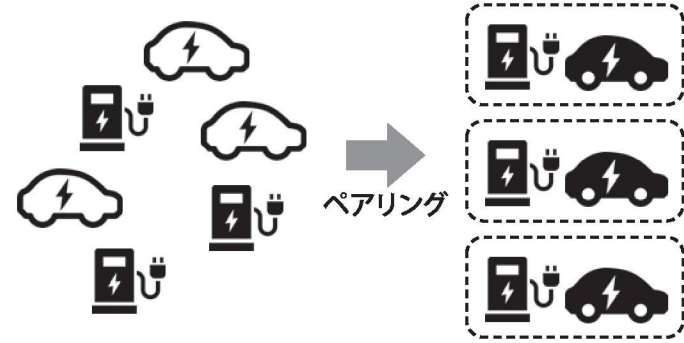


図 電気自動車を定置用蓄電池の代わりとして活用する研究

カーボンニュートラルを実現させるため、化石燃料の代わりに、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの導入が進められている。しかし、再生エネは、天候や季節、時刻により変動してしま

うという課題がある。【変動をカバーするための火力発電と定置用蓄電池】再生エネの変動をカバーするための調整力

は、現状、火力発電に依存している。つまり、化石燃料の代わりに導入した再生エネを、実は化石燃料が支えている。また、こうした運転率は著しく低下させるため、発電所が閉鎖されて採用する事例が増える要因の一つとなる

を軽減させるため、蓄電を再エネの調整力とするのが期待されている。我が国では、既に系統安定化のため数十〜数百メガワットの離島のマイクログリッドが、また、道豊富町では、600メガワットの風力発電出力を平滑化させるため、2

車も含めてハイブリッド車を排除する内容である。両者とも2035年のマイルストーンを定めたものであるが、100%実現の定義が似て非なることがわかる。当該規則については今後改正される

内外で導入政策活発も 長時間留まらぬ「側面」

刻により変動してしまいうという課題がある。【変動をカバーするための火力発電と定置用蓄電池】再生エネの変動をカバーするための調整力は、現状、火力発電に依存している。つまり、化石燃料の代わりに導入した再生エネを、実は化石燃料が支えている。また、こうした運転率は著しく低下させるため、発電所が閉鎖されて採用する事例が増える要因の一つとなる

ド車を排除する内容である。両者とも2035年のマイルストーンを定めたものであるが、100%実現の定義が似て非なることがわかる。当該規則については今後改正される



名雪 琢弥

なゆき・たくやま 1994年度入所、専門はパワーエレクトロニクス。博士(工学)

電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 EN-IC研究部門 上席研究員